

H21 春

問 7

解答

| 問 7 | 設問 1 | | | 設問 2 | 設問 3 | |
|-----|------|---|---|------|------|---|
| | a | b | c | ウ | d | e |
| | オ | ア | ア | | ウ | オ |

解説

設問 1

- a 傾向変動は、経済構造の長期変化に基づく一方向的な変動で、時系列分析の基本的な変動要素です。したがって、“**長期的な増加又は減少が継続する**”が入ります。
- b 季節変動は、主に周期1年の経済の季節特性に基づく確定周期変動です。したがって、“**増加と減少のパターンが1年ごとに繰り返される**”が入ります。
- c 不規則変動（偶然変動）は、ある確率分布をもって出現するものです。傾向変動や季節変動では説明できない変動で、はっきりとした傾向はありません。したがって、“**傾向変動や季節変動では説明できない部分**”が入ります。

設問 2

製品 X：製品 X は、全体として増加傾向にあり、月単位では不規則に変動しています。これは、“**傾向変動と不規則変動**”です。

製品 Y：製品 Y は、毎年10～1月あたりで需要が伸び、7～10月あたりで需要が減少しています。また、月単位では、不規則に変動しています。これは、“**季節変動と不規則変動**”です。

製品 Z：製品 Z は、ほぼ横ばいで、傾向変動や季節変動はありません。しかし、月単位でみれば不規則に変動しています。これは、“**不規則変動だけ**”です。

設問 3

- d 与えられた式に、9月～11月の需要実績を代入すると次のようになります。

$$\text{2008年12月の予測値（移動平均法）} = (92 + 105 + 115) \div 3 = \mathbf{104}$$

- e 与えられた式に、11月の実績値（= 115）、11月の予測値（= 100）、指数a（= 0.6）を代入すると次のようになります。

$$\text{2008年12月の予測値} = 0.6 \times 115 + (1 - 0.6) \times 100 = \mathbf{109}$$